

『遠き落日』

渡辺淳一著／角川文庫

誰でも小学生のときに、図書館にある野口英世の伝記を手にしたことと思う。小学生の純粋な心に偉大な科学者としての野口英世が突き刺さり、そして将来の科学者を夢見た人も少なからずいるだろう。かくいう私もそのうちの一人で、感化の度合いは人一倍強かったように思う。通っていた神奈川県海老名市立大谷小学校の図書室に並べてあった伝記シリーズの中で、もっとも回数多く読み返していたのが、野口英世であった。

野口英世は1876年に猪苗代湖畔で生まれ、小さい頃に負った手の火傷を気にしながらも努力し医師となり、そしてアメリカに渡り医学の研究で立派な業績を挙げ、さらに黄熱病の解明のためにアフリカに飛び、最後は自らが黄熱病におかされてアクラの地にて果てる。このような一生は、小学生の純粋な心を刺激するのに十分すぎるほどの伝記の題材となった。

ここで紹介する渡辺淳一著の『遠き落日』は、大人の目でみた、大人のための野口英世の伝記といってよい。野口の人生のすべてについて、綿密な調査により描かれている。純粋な小学生が小学校の図書室にある子ども向けの伝記を読んだ直後にこの『遠き落日』を読んだら、ショックをおこしてしまうだろう。野口の人生がそれくらい詳細に描かれている。幸いなのは、私自身これを読んだのが、小学生の純粋な心とはすでに縁遠い、大学院に入学したての頃であったことだ。さらに、これを研究者として生きている今読むと、野口の生き方が理解できるから、また面白い。

小学生のときに読んだ伝記の内容を思い出し、『遠き落日』と比較しながら、簡単に内容を解説しよう。

野口英世の出生後の名前は清作であった。伝記では、小さいころに囲炉裏に落ちて左手に大きな火傷を負ったと書いてあった。それが『遠き落日』ではかなり詳細に描かれている。それによると、2歳半で囲炉裏に落ちて、左手が直接燃えている薪に張り付き、直後に母シカにより助け出されたが、火傷は真皮から皮下組織に達し、最終的には拇指と中指が掌面に癒着し、他の指もそれぞれ曲がった形で縮んでしまった。それがすりこ木に似ているため、「手ん棒」とあだ名がついた。

その後、勉学を重ねて医学開業試験に合格した野口清作は23歳で北里研究所に勤める。「研究所」という言葉が小学生の心をくすぐる。そして伝記では、野口清作によく似た名前の医学生、野々口精作が東京で遊びまわる姿を描いた小説を読んで、改名したと書いてあった。小学生でも、「きっと後ろめたいところがあったのだろう」と容易に想像つくところが面白い下りであった。そして、昔の人は簡単に名前を変えることができた、と思い込んでいた。

ところが、『遠き落日』を読んだら、ここのあたりの野口英世の人生はもっと奥が深いことに気がついた。まず、野々口精作が東京で遊びまわる姿を描いた小説は坪内逍遙の「当世書生氣質」という流行小説だった。なかなかの大作家の作だったので社会にかなりの影響があった。そして野々口精作の遊びが、まさに自分の遊びにそっくりだと思い込んだ野口が恩師に相談したところ、恩師は英世という名前に改名するとよいと野口に提案するのである。しかしながら、実際には当時でも改名は容易ではなかった。改名のための条件があって、たとえば同じ村に同じ名前の人が複数いるときには、郵便配達で不便が生じるので、改名できるという具合だ。野口は翌年、同じ村の野口家に子どもが生まれると知って、「清作」と名づけるようにその家に勧め、計画を果たすことができた。これで同じ村に二人の野口清作が存在することになり、野口は英世に改名することができたという。

野口の死後、恩師は坪内逍遙に書簡を送り、当世書生氣質のモデルが野口英世だったかどうか、尋ねている。逍遙からの返信の中で、当世書生氣質は野口博士が9歳か10歳ころに起稿、出版したもので、まったくそのような事実はないと答えている。このようなやり取りを証拠としてそろえて、この『遠き落日』が執筆されているのである。やはり大人の読み物である。

野口英世24歳にて、米国ペンシルベニア大学に渡り、立派な研究を修める。アメリカの大学で世界的権威として活躍し、そして一時帰国したら日本中が騒ぎになることは、小学生にも容易に想像がつく。きわめてかっこいい。ところが、野口はペンシルベニア大学のフレクスナー教授をいきなり訪ね、雇用してほしいと頼んだのが実情のようである。フレクスナー教授は驚いて拒否するが、野口は日本にてフレクスナー教授に招聘されたと見栄を張ってきた手前、そのまま帰国す

るわけにいかなかった。確かにこのようなやり方は、昔も今も常識はずれで、普通では雇用しないだろう。ただ、私のところに新米研究者のこのような飛び込みがあって、それが野口のようにであったら、フレクスナー教授のように雇うかもしれない。野口の見栄は、才能と努力で裏打ちされていたのだ。

その才能と努力の例については、ぜひ『遠き落日』を読破して知ってほしい。簡単に述べると、卓越した語学力と寝る間を惜しんで実験をおこなう姿勢である。その一方で、ペンシルベニア大学やその後のロックフェラー研究所に提出した履歴書では、東京医学校卒と学歴を偽っていたりもする。偉大な科学者の人生における陽と陰を感じながら、人生にはプラスがあればマイナスも必ずあるという、人生哲学にたどり着くのもよからう。

執筆者紹介

斎藤 秀俊

物質材料系教授。専門領域は、機能材料工学、水難救助学。

【書名】 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格
『遠き落日』上・下巻 渡辺淳一著 集英社文庫 1990年 1,229円

ブックガイド目次へ